



呼吸器への刺激のおそれ  
 長期又は反復暴露による臓器の障害（全身毒性）  
 水生生物に非常に強い毒性  
 長期的影響により水生生物に強い毒性

注意書き：

〔安全対策〕  
 この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。  
 すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。  
 屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。  
 粉じん/ヒューム/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。  
 保護眼鏡/保護面を着用すること。

〔応急措置〕  
 飲み込んだ場合：気分が悪い時は、医師に連絡すること。  
 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易にはずせる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。眼の刺激が続く場合は、医師の診断/手当てを受けること。  
 気分が悪い場合：医師の診断/手当てを受けること。  
 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。口をすすぐこと。  
 皮膚刺激が生じた場合：医師の診断/手当てを受けること。  
 暴露または暴露の懸念のある場合：医師の診断/手当てを受けること。漏出物を回収すること。

〔保管〕  
 施錠して保管すること。  
 直射日光を避け、気温 15℃から 30℃かつ相対湿度 60%以下の清浄な場所に保存する。

〔廃棄〕  
 内容物/容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託処理する。

上記で記載が無い危険有害性は分類対象外または分類できない。

### 3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	: 単一製品
化学名又は一般名	: 塩化アンモニウム
化学特性	: NH <sub>4</sub> Cl
分子量	: 53.49
CAS 番号	: 12125-02-9
含有量	: 99 % 以上
官報公示整理番号(化審法)	: 1-218
官報公示整理番号(安衛法)	: 公表

### 4. 応急措置

吸入した場合 : 新鮮な空気の場所に移動させ安静にし、医師の手当てを受ける。

	体を毛布などでおおい、保温して安静を保つ。
皮膚に付着した場合	: 多量の水および石鹼で洗い流す。症状がでた場合には、必要に応じて医師の診断を受ける。
眼に入った場合	: 水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易にはずせる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。眼の刺激が続く場合は、医師の診断/手当てを受けること。
飲み込んだ場合	: 水でよく口の中を洗浄する。可能であれば、指をのどに差し込んで吐き出させ、直ちに医療処理を受ける手配をする。
急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状	: 眼：発赤、痛み。 皮膚：発赤。 吸入：咳、咽頭痛。 経口摂取：吐き気、咽頭痛、嘔吐。眼、皮膚、気道を刺激する。
応急処置をする者の保護	: 個人用保護具を着用すること。

## 5. 火災時の措置

消火剤	: 水、粉末、二酸化炭素、泡、乾燥砂。
火災時の特有危険有害性	: 分子中にN、ハロゲン含有しており火災時に刺激性もしくは有毒なヒューム（またはガス）が発生するため、消火の際には煙を吸い込まないように適切な保護具を着用する。
特有の消火方法	: 本品自体は燃焼性はないが、火炎に熱せられると昇華して刺激性白煙を発生する。消火活動は風上から行い、場合によっては呼吸保護具を着用する。移動可能な容器は速やかに安全な場所に移す。移動不可能な場合には周囲を水噴霧で冷却する。
消火を行う者の保護	: 消火作業では、適切な保護具（手袋、眼鏡、マスク）を着用する。

## 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項	: 付近の着火源となるものを速やかに取り除く。着火した場合に備えて、消火用器材を準備する。
保護具及び緊急時措置	: 屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。作業の際には適切な保護具を着用し、飛沫等が皮膚に付着したり、粉塵、ガスを吸入したりしないようにする。
環境に対する注意事項	: 漏出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起ささないように注意する。汚染された排水が適切に処理されずに環境へ排出しないように注意する。
回収、中和	: 漏出した液は、ウエス、雑巾または土砂等に吸着させて空容器に回収し、そのあとを多量の水を用いて洗い流す。
二次災害の防止策	: 漏出した場所の周辺に、ロープを張るなどして関係者以外の立ち入りを禁止する。風上から作業して、風下の人を退避させる。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	
技術的対策	: 吸湿性が大きいので、湿度の高い期間は取扱いに注意を要する。塩

- 基性物質との混合の恐れのある場所には貯蔵しない。
- 局所排気・全体換気  
安全取扱注意事項
- : 粉塵が発生する場合は、発生源を密閉し、局所排気装置を設置する。
  - : 容器を転倒させ落下させ衝撃を与え又は引きずる等の粗暴な扱いをしない。
- 漏れ、溢れ、飛散などしないようにし、みだりに粉塵や蒸気を発生させない。
- 使用後は容器を密閉する。取扱い後は、手、顔等をよく洗い、うがいをする。
- 指定された場所以外では飲食、喫煙をしてはならない。
- 休憩場所では手袋その他汚染した保護具を持ち込んではいならない。
- 取扱い場所には関係者以外の立ち入りを禁止する
- 吸い込んだり、目、皮膚及び衣類に触れないように、適切な保護具を着用する。
- 屋内作業場における取扱い場所では、局所排気装置を使用する。
- 保管
- 適切な保管条件
- : 直射日光を避け、気温 15℃から 30℃かつ相対湿度 60%以下の清浄な場所に保存する。
  - 長期保存すると、吸湿して固化することがある。涼しいところ、換気の良い場所で保管すること。防湿に留意する。酸化剤、アルカリ、強酸との混触禁止。
- 安全な容器包装材料
- : ポリプロピレン、ポリエチレン

※標準物質としての適切な保管条件、使用に関する注意事項については、認証書を参照のこと。

## 8. ばく露防止及び保護措置

### 管理濃度

設定されていない

### 許容濃度

- ・ ACGIH TLV-TWA : 10 mg/m<sup>3</sup> STEL 20 mg/m<sup>3</sup> (vaper)
- ・ 日本産業衛生学会勧告値 : 設定されていない
- ・ OSHA PEL TWA : 設定されていない

### 設備対策

- 換気・排気 : 局所排気装置又は全体換気装置。
- 貯蔵上の注意 : 密封。可燃性及び還元性物質、強酸化剤から離しておく。防湿に留意する。

### 保護具

- 呼吸器の保護具 : 保護マスク
- 手の保護具 : 不浸透性保護手袋
- 目の保護具 : 保護眼鏡
- 皮膚及び身体の保護具 : 長袖作業衣

### 衛生対策

取扱い後はよく手を洗うこと。

## 9. 物理的及び化学的性質

・外観等	: 結晶粉末
・色	: 白色
・臭い	: 無臭
・pH	: 4.5 ~ 6.0 (50 g/l 25 °C)
・融点	: 338 °C (分解)
・沸点	: 520 °C
・引火点	: データなし
・爆発範囲	: 爆発しない
・蒸気圧	: 0.13 kPa (160 °C)
・相対蒸気密度 (空気 = 1)	: データなし
・比重又は嵩比重	: 1.53
・溶解度	: 水に可溶 (29.4 g/100 ml 水, 0 °C ; 77.3 g/100 ml, 100 °C) エタノールとメタノールに難溶、アセトンとエーテルに不溶
・n-オクタノール/ 水分分配係数 (log Po/w)	: -4.37
・自然発火温度	: データなし
・分解温度	: 338 °C
・燃焼性	: データなし
・粘度	: データなし

## 10. 安定性及び反応性

### ◇安定性

- ・通常条件で安定である。

### ◇反応性

- ・水溶液をアルカリ性にするとうアンモニアガスが発生する。
- ・加熱すると分解し、有毒で刺激性のヒューム（窒素酸化物、アンモニア、塩化水素）を生じる。
- ・水溶液は弱酸である。硝酸アンモニウム、塩素酸カリウムと激しく反応し、火災や爆発の危険をもたらす。
- ・銅及びその化合物を侵す。

### ◇危険有害反応性

- ・データなし

### ◇避けるべき条件

- ・日光、熱、湿気

### ◇混触危険物質

- ・酸化剤、アルカリ、強酸

### ◇危険有害な分解生成物

- ・窒素酸化物、アンモニア、塩化水素

## 11. 有害性情報

急性毒性                      経口 ラット LD50: 1650 mg/kg

	<p>マウス LD50: 1300 mg/kg          筋肉 ラット LD50: 30 mg/kg          腹腔 マウス LD50: 485 mg/kg          皮下 マウス LD50: 500 mg/kg          静脈 マウス LD50: 358 mg/kg          経口 ラットにおけるLD50=1650 mg/kgの記載(ACGIH)に基づき区分4とした。</p>
皮膚腐食性/刺激性	<p>ヒトにおいて、短期暴露の影響として「皮膚を刺激する」、皮膚に対する一次災害/急性症状として「発赤」をひきおこす、との記載(ICSC(J))に基づき区分3とした。</p>
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	<p>目刺激 ウサギ 500 mg/24H 軽度          目刺激 ウサギ 100 mg 重度</p>
生殖細胞変異原性	<p>データなし</p>
発がん性	<p>データなし</p>
生殖毒性	<p>マウスで親への毒性についての記載がないが、児に奇形が見られたとの記載、未交配の雌ウサギに卵巣肥大、卵胞成熟、黄体形成、子宮肥大、乳頭肥大、乳汁分泌が見られたとの記載(EHC 54)、および親ラットに代謝性アシドーシスを認めた用量で吸収胚が1/4に達したとの記載(IUCLID)に基づき区分2とした。</p>
特定標的臓器/全身毒性(単回暴露)	<p>短期暴露により気道を刺激するとの記載および吸入により咳、咽頭痛を生じるとの記載(ICSC(J))に基づき区分3(気道刺激性)とした。</p>
特定標的臓器/全身毒性(反復暴露)	<p>ヒトにおいて代謝性アシドーシスを来したとの記載(ACGIH)に基づき区分1(全身毒性)とした。なお、用量の記載はないがラット、ウサギ、イヌにおいても長期投与により骨粗鬆症を生じ、その原因は代謝性アシドーシスであるとの記載(EHC 54)がある。</p>

## 12. 環境影響情報

### 生態毒性

- ・魚類(ニジマス)の96時間LC50=0.696 mg/l (ECETOC TR91)

急性毒性が区分1、水中での挙動および生物蓄積性が不明であるため。

### 分解性・濃縮性

- ・データなし

### 生体蓄積性

- ・データなし

### 土壌中への移動性

- ・データなし

### オゾン層への有害性

- ・データなし

## 13. 廃棄上の注意

- 残余廃棄物 : 大量の水で希釈して流す。肥料として使用出来る。  
 これを含む排水は活性汚泥等の処理により清浄にしてから排出する。

廃棄においては関連法規ならびに地方自治体の条例に従うこと。  
なお上記方法による処理が出来ない場合は都道府県知事の許可を得た  
専門の廃棄物処理業者に委託処理する。

汚染容器及び包装 : 空容器を廃棄する場合、内容物を完全に除去した後に処分する。

#### 14. 輸送上の注意

国連番号 : 該当なし  
 国連分類 : -  
 品名 : -  
 容器等級 : -  
 ICAO/IATA : 該当なし  
 海洋汚染物質 : 該当なし  
 注意事項 : 輸送前に容器の破損、腐しよく、漏れ等がないことを確認する。  
 転倒、落下、破損がないように積み込み、荷くずれの防止を確実に行う。  
 直射日光を避ける。

#### 15. 適用法令

- ◇労働安全衛生法
  - ・施行令第18条 名称等を表示すべき有害物
  - ・施行令第18条の2 名称等を通知すべき有害物 No. 96
- ◇食品衛生法
  - ・食品添加物 011-03015
- ◇水質汚濁防止法
  - ・有害物質（法第2条、令第2条、排水基準を定める省令第1条）

#### 16. その他の情報

##### その他

記載内容は現時点で入手できる資料、データに基づいて作成しており、全ての情報を網羅しているわけではありません。また、注意事項は通常の取扱いを対象としたものであって、特殊な取扱いの場合は、用途、用法に適した安全対策を実施の上、ご利用下さい。

記載内容は情報提供を目的としており、取扱い上のいかなる保証をなすものではありません。